



TITLE:

田島先生の憶ひ出

AUTHOR(S):

田島, 順

CITATION:

田島, 順. 田島先生の憶ひ出. 經濟論叢 1934, 39(2): 302-304

ISSUE DATE:

1934-08-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/130473>

RIGHT:

京都市帝國大學經濟學會 經濟論叢

第二號

第三十九卷

昭和九年八月一日發行

哀辭
故田島博士近影及署名
故田島博士原稿及京大弓道々場における博士

論叢

骨牌税に就きて……………法學博士 神戸正雄
供給曲線の性質……………文學博士 高田保馬

時論

輸出統制の諸問題……………經濟學博士 谷口吉彦

研究

貨幣的景氣論史……………經濟學士 柴田敬
金物價と貨幣價值安定……………經濟學士 松岡孝兒
アダム・スミスの廉價即豊富論……………經濟學士 白杉庄一郎

記事

田島博士逝く
故田島博士年譜及著書論文目錄
追憶文

附錄

織田 萬 神戸 正雄 山本 美越乃 財部 靜治
河田 嗣郎 本庄 榮治郎 小島 昌太郎 大國 壽吉
汐見 三郎 黒 正 巖 田 島 順 石川 興二
谷口 吉彦

新着外國經濟雜誌主要論題

田島先生の憶ひ出

田 島 順

恩師田島先生を御追憶申上げる時の、こんなに突然來たことは私共にとつて、譬へかたなき悲しみの事實です。去月二十八日朝私が研究室で、學生の方に御會ひして居た折でした。先生の御薨去を電話で承はり驚愕なすを知らず、何物も取り敢えず、御宅に轉び込んだ次第でありました。一週間程前か私は先生から御呼出に預り、不幸、不在の爲に御目にも掛らず、一度其詫び勞參上仕り度、心組居り乍ら、今はそれも、不可能となつたので御座います。今春梅見に行く御約束も、果さず終ひとなりました。私としてこれ程の心残りはい

ありません。

私共が先生の御世話に相成つたことは、並一通の事でないで御座います。前後二十年以上にも及びませうか。始めは大學の端艇部選手と學生として。凡そ何事によらず何時も、先生に御迷惑ばかり御掛けして居たのであります。先生の御乗人力車の後押しをして吉田山の御宅に御供したことを憶えて居ます。立命館大學學長となられましたからは、私は先生の御膝下で、格別の御恩顧を被つたので御座います。私共至らぬ身を以て、併しあらん限りの誠意を以て、先生に御仕へしたのであります。先生が立命館に御關係になつたのは確か立命館の創立の時からと聞いて居ます。先生の御高德をしたい奉るもの、立命館關係ばかりでも、三千に餘る有様、今日の立命館の盛大は、先生の御力添の然らしむる結果と云ふて、敢て過言でありますまい。先生が如何に高邁な御識見に於て、學校の仕事に御盡し遊ばされたるか、數々の實例を知るものは豈決して、私共ばかりでは御座いけません。

先生が御専門の學に御最後迄、御精進遊ばされて居たことは私共の兎や角申す迄もない事であるけれど、其他に端艇、武道等御一生を通じて、運動方面に御盡力を煩はしたことが非常であつて、關西否日本の運動界は先生によつて大なる發達を遂げたのであります。小さいことでありますが、私が嘗て二年程病で引籠つて居た後で、先生に御目に掛つたとき「君の身體が恢復し得たのは運動で鍛えてあつた爲である」と仰せられたのです。今も私は其御一言を忘れ得ず、運動の必要を沁々と感じて居るので御座います。先生は近頃も益々御元氣に、御趣味として御詩を時にものせられ、又、東洋經濟學の御著書を御執筆中でありました。それも最早其儘となる外致し方も御座いますまい。口惜しき限りで御座います。申すも畏多い事乍ら、先生は御生涯の間只の一度も悪い、愧づべきことと御後悔になつたことはなかつたと存じます。それ程御慎重に、そして事に處して果斷であらせられたのであります。表面は兎も角として、内心腑の下に汗の出る思を屢々

追 憶 文

する私共に對して、先生は長い間尊い御教訓を身を以て示されたのです。

私共は先生の御大恩を永久に忘ることの出来ない者で御座います。先生の御溫容に接することは最早出来なくなりました。悲しい悲しいことです。

(七月十一日)
